

温熱化学療法で長期制御できた胃癌の1例

天草第一病院 外科 赤嶺富春、伊瀬知進
戸畑共立病院 がん治療センター 今田肇
産業医科大学病院 放射線治療科 矢原勝哉

59歳男性、主訴は下痢。2009/11/26 初診。肝転移、腹腔内リンパ節転移を伴ったIV期胃癌の診断。CDDP/S-1 温熱化学療法 6クール施行後、2010/7/20 手術（幽門側胃切、肝転移に RFA）施行。腺癌、pT2, N2, M1。HER2(-)。術後経過中、肝転移再燃や腹腔内リンパ節転移出現、そして肺転移が出現した。これらに対して温熱化学療法を約4年間施行し、4回の放射線治療をはさみながら、2014/7/30までの生存を得たので報告する。なお、術後に使用した抗がん剤は以下である。
(PAC, 5-Fu/1-LV, DOC, nabPAC, CPT/CDDP, CAP)